

種なしぶどうの短梢せん定（ナガノパープル、シャインマスカット等）

令和元年 12 月 27 日 長野農業改良普及センター

1 今年を振り返って

- ・ぶどう「無核巨峰」（長野市松代定点）の発芽は4月24日で、平年より3日、昨年より7日遅かった。満開は6月5日で平年より2日早く、昨年より4日遅かった。
- ・春先の低温により発芽不良、新梢の伸びのバラツキが見られた。黒系品種は、糖度、酸抜け、肥大とも平年並みで、シャインマスカット等の白系品種は生育遅れ、肥大も平年を下回った。
- ・皮ごと食べれる品種「シャインマスカット」や「ナガノパープル」の果皮が厚く硬かった。
- ・「シャインマスカット」を中心に縮果症や小房、未熟粒混入症の発生が見られた。
- ・「ナガノパープル」では果頂部裂果、着色不良が見られた。

2 結果枝の切り方

（1）あらせん定

雪害防止のため、降雪前に新梢を20～30cmで切除し、ぶどう棚に積雪しないようにする。



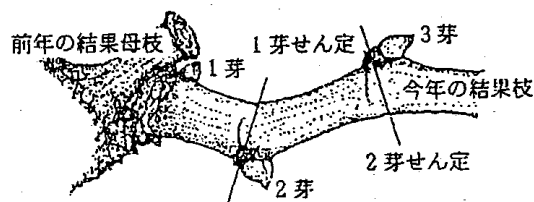
（2）仕上げせん定の基本事項

①誘引しやすい位置の芽を残すようにする。

②下図aの1芽せん定が良い。樹冠拡大中の樹の長梢部分から出た結果母枝を初めて短梢せん定する際は、節間が短ければ下図bのように1芽せん定としたい。

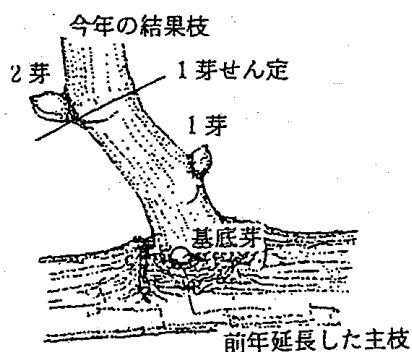
（シャインマスカットは節間が長く、基底芽は花穂の着生が悪いので1年目のみ2芽せん定でも良い。この場合も、第1芽の伸長、花穂の発達程度を確認し早めに第2芽をかき取り可能な限り第1芽を用いる）

③せん定時期は厳寒期以降がよい。切り口の乾燥や枯れ込みを防ぐため、塗布剤を塗布する。犠牲芽せん定で切る場合は芽をきちんと落とす。（節に芽を残さない）



a せん定方式

結果枝のせん定法



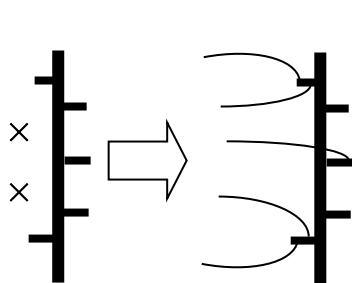
b せん定方式（若木）

3 その他応用技術

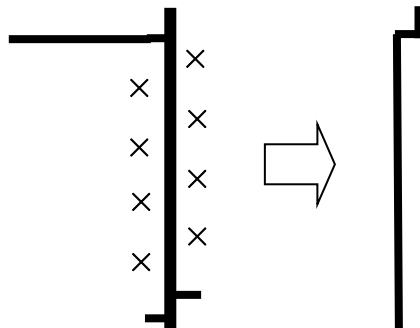
①欠損芽があった場合の対応

短梢せん定では、欠損芽は収量減に直結する。片側20cm間隔で新梢が欲しい。

両側は確実に2芽残し、そこから新梢を発生させ埋める。反対側の結果母枝を誘引して対応してもよい。1メートル以上芽がとんでしまった場合は主枝を作り直す。

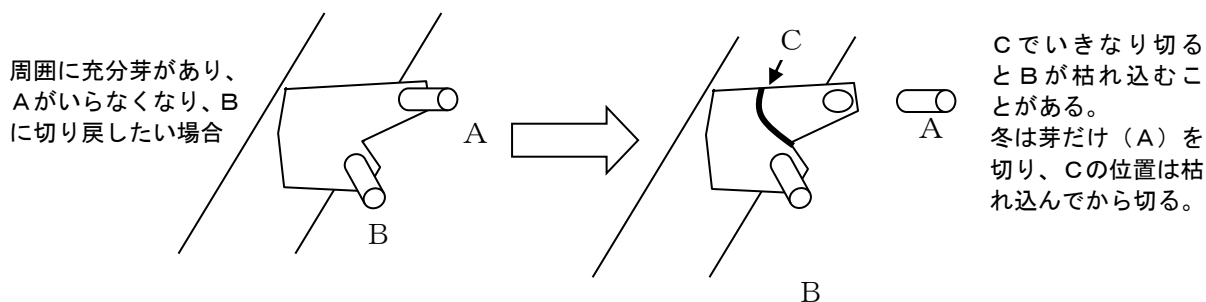


2芽欠損した場合は、
隣や反対側の芽で埋める

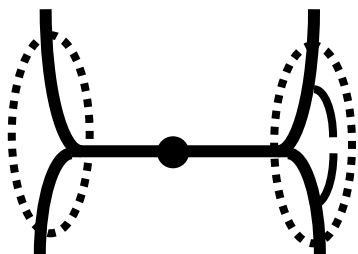


両側で1m以上続けて（おおむね片側4芽以上）芽が欠損した場合は、結果母枝をつくり直す（芽傷処理は必ず行う）

②芽座の部分には、結果母枝よりも太い切り口はつくらないようにする（下図）。



③ナガノパープルの主枝分岐部分の品質

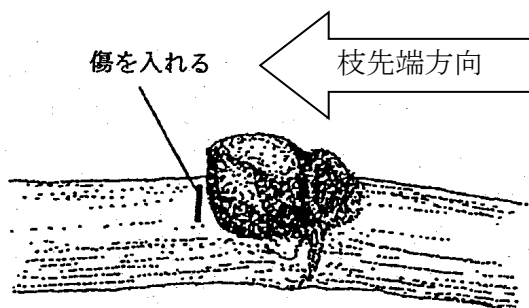


主枝分岐部分の房は新梢が強くなりやすいため、着色や糖度上昇が遅く、場合によっては熟さず裂果も発生しやすい。この部分の新梢はできるだけ整理し、先端側からの返し枝で棚面を埋めたい。芽傷処理は必ず行う。分岐部が混むとクビアカスカシバの被害を受けやすくなるので注意。

4 芽傷処理（主枝先端長梢部が太く扁平な場合）

（1）基本事項

- ①主枝先端の長梢部分がある場合は、先端2芽を除き全てに芽傷処理を行う。
- ②せん定ばさみや鋸等で、芽の場所から先端部の方向に2～3mmの位置に、形成層に達する深さで傷を入れる。（浅く、広く）



芽傷の位置

（2）実施時期等

- ①処理時期は、樹液流動（水上がり）直前が最も良い…発芽率90%程度は確保できる。
- ②枝の誘引を終わらせてから行う…順番が逆だと、折れてしまう！
- ③できれば芽傷処理後、傷口にゆ合肥促進剤を塗布して乾燥を防ぐ。